

支部だより

2019/10/05 No.24 東京支部事務局

JNP2019夏の大撮影会報告

去る7月27-29日、2泊3日の日程で河口湖、小淵沢、韭崎を中心に、東京支部幹事による日本風景写真協会本部主催の「JNP夏の大撮影会」が行なわれました。

大撮影会のテーマは、「花のある風景」、宿泊先の河口湖湖畔にある“ホテル湖龍”（三島よりバスにて参加される方のお迎えは、太田さん、藤野さんをお願いをしました）。

大撮影会前日、数人のメンバーで最後のロケハンの時、2日目の撮影地である「明野のひまわり畑」に着て愕然・・・22面あるひまわり畑の内、咲いている畑がたった2面、これでは、参加者を案内できない。

対応策を考えながらホテル“湖龍”に移動。すぐに、対策会議です。代案候補を2～3出して下見、何とか代案が決まって、大撮影会前日の準備を終えました。

第1日目の午前中は、参加者の受け入れ準備。そして、午後からは、開会式（大撮影会担当理事・大鐘氏による開会宣言、副会長・大戸氏によるご挨拶、そして、東京支部スタッフ紹介）その後、私と高橋さんによるオリエンテーション（大撮影会プログラム、撮影地説明）が行なわれました。



写真A：「開会式」で挨拶する戸張支部長

開会式、オリエンテーション後は、川隅功指導会員の講演。テーマは、「川隅功流“1枚の作品が仕上がるまで・・・”」、講演内容は、“作品づくりに向け

たプロ写真家の裏話” 普段聞くことができないお話を伺うことができました。

その後、担当責任者：井上さんにより集合写真撮影を行なった後、大広間に一堂に会し、夕食・懇親会。テーマは「交流」——担当責任者である紀田さんの司会、太田さんのサポートのもとに参加者同士の交流を深めていただくための新企画を取り入れた和やかな夕食・懇親会でした。

2日目は、自由行動による早朝散歩と撮影・・・「早朝の河口湖と富士山」・・・何とか富士山が顔を出してくれたようです（私は、昨日の疲れで夢の中でした）朝食後、2台のバスに分乗し、一路富士見高原リゾート・花の里へ。バスの乗り降りの点呼、チェックは菅澤さん、篠原さん。

白樺エリアを中心に、約2時間、白樺林の中に群生する“アジサイ”“ヘメロカリス”“ニッコウキスゲ”“ガウラ”“ジキタリス”等を撮影、終了後は、担当責任者である泉屋さんのアレンジで隣接した日帰り温泉で昼食・休憩。

花の少ない次の予定撮影地「明野のひまわり畑」をパスし、山中湖・河口湖方面に変更し、天候の状況を見ながら、花の都公園のロケハン、夕景撮影をし、「ホテル湖龍」に戻りました。

最終日7月29日は、早朝3：00集合、一路「花の都公園」へ、真っ暗な中、富士山登山の明かりを見ながら、百日草と富士山が正面に見える撮影ポイントに整列、撮影準備・・・夜が明けると共に、富士山が姿を見せ、百日草にも日が射し、上々のコンディションの中で撮影をすることができました。

また、幸運にも、百日草の後方にも「ひまわり」が咲き、他の畑にはほぼ満開の「ひまわり」があり、光芒も出る中、参加者も無言でシャッターを切っていました。

写真B：花の都公園での撮影に盛り上がる参加者



今年は、梅雨が明けるのが遅くまた、思いも寄らぬ直近の台風発生、これによる開花の遅れ、前日まで天候も心配でしたが、夏の暑さにも拘わらず、事故もなく、富士山も見ることができ、まあまあの大撮影会であったのではと思います。

参加者の多くの方からは、丁寧で、スムーズな運営、さすが東京支部、素晴らしいですねとのお褒めの言葉をいただきました。



写真C: 他支部の人と隣り合わせ、楽しい夕食会

大撮影会の成功は、大撮影会担当理事・大鐘氏、急遽、落井会長の代わりに参加いただいた副会長・大戸氏、本部事務局・花倉氏、参加者の皆さん、そして、一年前から綿密な計画を進め、対応してくれた東京支部のメンバーのお陰ではと思っています。

紀田さん、太田さん、井上さん、高橋さん、泉屋さん、鈴木（暎）さん、鈴木（雍）さん、戸張（伸）さん、陶山さん、菅澤さん、佐々木さん、須加尾さん、藤野さん、篠原さん、渡邊（勝）さん（計画時の協力）、ありがとうございました。

（文責：東京支部支部長・戸張 眞）

JNP2019大撮影会スタッフとして考えたこと

東京支部の一大イベントとして重要な大撮影会ですが、事前準備の段階ではあまりお手伝いできませんでしたので、当日頑張るしかありませんでした。担当はバス車中での対応でしたので、特に手間取ると聞いていた点呼をいかにスムーズに行うかがポイントと思われました。

結果として、座席シール（バス座席の前に名前を貼る）はアイデアとして面白いものでしたが、一番点呼に寄与したのは座席を固定したことだと思います。容易に座席表を作成できたこともあります、空いて

いる席が一目瞭然となるため、全員いるのか、あるいは誰かいないのかが、一目で分かるのです。確認のため、人数は数えましたが、点呼にほとんど時間はかかりませんでした。これが最大の勝因と思います。



写真D: バスの中で座席について説明する菅澤スタッフ

座席シールは受けはしましたが、布部に貼ると剥がれやすく、工夫が必要と思います。今後採用されるかどうかは分かりませんが。

後で聞いたことですが、わたしのザックに付けたJNPの小旗が好評だったとのこと。本人はそんな意識がなく、手に持つのが面倒だったので、ザックに付けただけでした。背が高い方ですし、たまたま頭にタオルを巻いていたので、目立ったのでしょうか。何が功を奏するか分かりません。

今回の大撮影会は振り返って見れば、ひまわりなど不測のでき事があったわりには、天候も持ちこたえてくれましたし、

全体には成功で間違いないと思います。それは準備と臨機応変な対応を怠らなかった、戸張支部長はじめ皆さんの努力の賜物ですが、取り敢えず、自分の分担部分は全うできたかなと安堵しております。

（文責：菅澤光裕）

スタッフとしてのJNP2019夏の大撮影会への参加

私はJNP大撮影会にスタッフに一人として参加しました。大撮影会への参加は、今回で2回目。東京支部としては、1年ほど前からメンバーが準備を進めました。

運営に当たっては、過去の大撮影会の反省を踏まえて、以下の様な工夫をしてみました。

- ① バス乗車時、手際よく1回で点呼ができる工夫

② 夕食・懇親会で参加者同士がフランクに交流できる工夫

①については担当者の菅澤さんにお任せして、ここでは②についてご説明します。

前回参加した本部主催の大撮影会では、座席は自由であったため、仲間同士の固まり、仲間同士の会話でした。これでは、参加者同士の交流がむずかしいのではないかと思いました。

これに対応するため、宴席の決め方を工夫してみました。ランダムに宴席の番号を各自で引いて頂き、自支部の方同士が固まらず、他支部方々と宴席を共にする事ができました。



写真E：宴会場入り口でくじをひく参加者

また、その後、各支部別の参加者の紹介、クイズ等、新企画が満載の宴席を進める事により、交流も盛り上がり、楽しんでいただいたのではないのでしょうか。「交流」をテーマに、懇親、情報交換が横の繋がりができたと思います。

大撮影会・スタッフとして行き届かない点もあったと思いますが、以上の様な工夫を盛り込み、今までに無い運営にチャレンジした結果、参加者の方々からも、さすが東京支部、丁寧で、素晴らしい運営とお褒めのお言葉をいただきました。

盛夏にも拘わらず、参加者全員が元気で撮影会を終える事ができました。（文責：東京支部・太田桃子）

篠原さんによる特別研究会

“フォトショッパの使い方”報告

- 日時：2019年6月1日、7月13日
- 会場：中小企業会館8F・A会議室
- 講師：篠原さん
- 参加メンバー数：約12名

今年の特別研究会は、支部メンバーであり、プロ写真家である篠原さんを講師に「フォトショッパの使い方（入門編）」をテーマに、12名（初級・中級者）が参加して行われました。

第1回目の研修は初級編・フォトショッパのインストールからスタート。事前インストールができていない人、トライしたがインストールできなかった人など、参加者のレベルがばらばらなため、スタート時の対応に手間取り、インストール（中級レベルの方にサポートしてもらう）に約1.5時間を費やしてしまいました。。。

漸く、画像処理ソフトとその種類？ フォトショッパとは？ から始まり、篠原さんの作品を使用しながら、初級編として基本的な操作の説明が始まりました。

第2回目の研修は、応用編・フォトショッパの各種の機能を駆使した作品を輝かせるためのフォトショッパ活用法（ハーフND的な効果付与法、かすみ除去、部分的な明るさ調整、各種色調整等風景写真の画像処置法、ゴミ取りのやり方、高感度ノイズの軽減法、特定の色の調整法、周辺減光対処法、傾き調整法等）について篠原さんの作品を使用し、その操作法を勉強しました。

参加者の方からは、こんなことができるのか、これはすごい・・・改めて、勉強を本格的にスタートさせ、使いこなせる様になりたいとの感想。

研修後は、2回の研修のお礼と篠原さんの第1子（長女）誕生祝いを兼ね近くの中中華料理店に集まり、懇親会。

今回の特別研究会で教えていただいたフォトショッパの使い方に関する質問また、中級の方からのフォトショッパ活用実践例等の意見交換が行なわれ、盛り上がりました。

篠原さん・・・ありがとうございました。

（文責：戸張 眞）

フォトショッパ講習会に参加して

6月と7月に行われた篠原さんが講師をしてくださった「フォトショッパ講習会」に参加しました。私自身は、フォトショッパは使っていましたが、露光量、ハイライトやシャドーの調整程度しかできないレベルでした。部分的な焼き込みや覆い焼きに相当する処理はうまくできないでいたので、この講習が行われることが決まった時からとても楽しみにしていました。

第1回目は、基礎編ということでまずはフォトショップの体験版の導入、立上や露光量の調整等の基本的な部分を習いました。その中でも自然な彩度は15くらいの増減は問題ないことやISOも1600くらいまでであればノイズにも大きな影響はないということは参考になりました。

第2回は、いよいよ楽しみにしていた内容です。段階フィルターや円形フィルターの使い方。まずは段階フィルターについて。これはなかなか変更させたい部分の範囲をうまく特定できず苦労していた操作です。操作方法を言葉で説明するのは難しいのですが、変更したい部分の設定方法が、本来とは逆の操作をやっていたようなのです。実際にPCで操作をしながら説明を受けてやっと理解ができました。今後はハーフNDの効果は大いに活用したいです。

そして円形フィルター。こちらについてはぼかしの量やその効果を内側にするのか外側にするのかという操作上の基礎を学びました（その方法が分かっていたのです(-_-;)）。この処理が理解できると焼き込みや覆い焼きの効果を出せる用になるので、今後の作品作りに大いに役立つと思っています。

その他にも高感度ノイズの軽減、周辺減光の対処法等とても参考となる操作を教えていただき勉強になりました。この講習会に参加することができてとてもよかったですと思っています。講師の篠原さん、企画してくださった役員の皆さんありがとうございました。

(文責：須賀尾浩)

東京支部に入会して

相場富江さん：

例会に参加させて頂き、会員の皆様の作品の素晴らしさに驚き、不安が募るばかり。

そんな中、ふとある絵手紙に目がとまりました。つゆ草の花の絵に、「子供の頃見た花は、どうして心が動くのだろう」の言葉が添えられていました。

例会では、山口先生から、「だんだんに被写体の方から話かけられるようになりますよ」と。

そうか！子供のようなまっさらな心で、被写体に向き合っていたら、きっとそんな日がくるのであろうかと思うと、単純ですが、前へ進んでみようかと思えてきます。

まずは、ちょっとでも皆さんに近づけたらなあ～

と。

田舎者で方向音痴の私ですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

佐藤亨枝さん：

花風景と残雪山風景を主に撮影してきました。

昨年一眼レフで撮影し、10年経ったのをきっかけに美しい風景写真を撮影したく入会させていただきました。

2017年11月に友人の写真展を觀に富士フォトギャラリーに行きました。隣の会場で、日本風景写真協会東京支部展が開催され、拝見させて頂き、どの作品もととても素晴らしく感動したことを今回一緒に入会したAさんに話しました。

その後、Aさんと写真展など一緒に昨年6月に川隅功氏の「旬瞬景」展を觀に行った時、同時開催で、日本風景写真協会埼玉支部展があり、会報と入会申込書をいただきました。

7月の埼玉プラザ・ノース・ギャラリーで開催された埼玉支部展は、大全紙の作品でスポットライトに照らされ圧巻でした。また秋の東京支部第16回作品展を觀させて頂き、受付の方に「東京支部で一緒に活動しませんか！」のチラシを頂き、楽しみながら写真技術の向上など気に入りました。

初めての定例研究会に出席させて頂き、先生の丁寧な講評と説明はとても勉強になりました。データ付きの作品回覧も直近で拝見でき、勉強になり有難いです。

これから宜しくお願い致します。

関水玲子さん：

私は、知人からお誘いを頂き、3月30日の風景写真東京支部の定例会の見学をさせていただきました。

山口先生の講評会では、一人の持ち分の時間が終わるとベルが鳴ります。先生は始終柔和で、丁寧に細かいところまで、作品を講評して下さいました。そして、会員の人たちの作品は、みんなとても素晴らしく、そんな作品がどんどん続きました。

次回の定例会に持参する写真が心配でしたが、講評の終わった写真を見せて頂いたら、近くで見るともっと素晴らしい写真でした。

素晴らしい写真の持ち主の名前に覚えがありました。

た。

夕焼けに一面のポピー畑、背景は筑波山で「風景写真」の何月号かの表紙を飾った作品です。とてもざっくばらんで、豪快な感じでおどろきました。

6月から会員にさせて頂き、2回の定例会に出席しました。素晴らしい人たちに交じって、講評を受けるのは少し気が引けましたが、日ごろ撮りためた中から5枚の写真を提出しました。何度もプリントし直した物もありました。拙い写真でも先生は一枚一枚丁寧に見て下さり、私にも金賞と銀賞の作品を選んで下さいました。

金賞をいただいたのは初めてで、全員がそれぞれ金賞、銀賞を選んでいただくのですが、本当に励みになります。

6月の定例会では、先生の講評で、写真の一部分を明るく、一部分は少し暗くというコメントを頂きました。その時には“Photoshop”の特別講座受講のお知らせが届いていたので、Photoshopの講座に出席する気になりました。基礎編は終わっていて、応用編でしたが、分かりやすいプリントも配られました。またパソコンを持参しなかったのが、パソコンある方の隣に座らせて頂きとても分かりやすくなりました。

今は、まだその時に教えて頂いたツールが全部上手に使えるとは言えませんが、勉強になりました。

風景写真協会東京支部を紹介して下さいた知人には、本当に感謝いたします。

そして、先輩の皆様、時々私も懇親会やイベントにも参加したいと思います。

どうぞ、写真にまつわる話や、情報もお聞かせください。写真のご指導をよろしくお願いいたします。

“私のお気に入り撮影スポット” 2019年第3回

「私は、現在都内及びその近郊の風景写真をカメラに収めています。地方へは5・6年前以来、一度も出かけていません。

今回は、前者で撮ってきた撮影スポットを紹介します。

都会を離れ、多摩方面へ行けば、都会の喧騒を忘れてくれる位、風景が展開してくれます。

ここは、町田市の丘陵地帯、そこには開発の波が押し寄せている一方、あるところには地形とか都条例により、開発できないところもあってか、自然豊かなと

ころも結構あります。

侵食され、形成された谷状の地形が、今の棚田になっています。

私が訪れた同市小野路町にはいくつかの谷地に其々の何とか谷戸と呼ばれています。訪れた五反田谷戸は、去秋田起こしされた棚田、そして丘には雑木林の新芽、コブシ、ヤマザクラ、などが咲いていました。小道の脇には一本桜と稲叢が写欲を注いでくれました。この辺の小道は、自然散策コースにもなっており、案内板も立ててあります。



尚、稲叢は、年毎にありなしがあるので、お出かけの際にはご注意ください。 (文責：渡辺直昭)

写友広場

このコーナーは本号から新しくもうけられたもので、東京支部メンバーをはじめ、その友人知人や他支部メンバーなど写友たちの写真展やテレビ雑誌などマスコミへの露出など、活躍ぶりを紹介していきます。以前「支部だより(号外)」でご紹介した高橋清さんのテレビ番組「10万円のできるかな」への出演は本来であればこのコーナーでお知らせすべきニュースでしたが、支部だよりの発行を待っていては間に合わないニュースだったため号外でのお知らせとなりました。

この号では、「JNP選抜展「四季の彩り」」入選者をお知らせします。東京支部からは須加尾浩さん、山田智一さん、戸張伸子さんの3名が入選されました。おめでとうございます。戸張支部長は一次審査通過でしたが、2次審査で惜敗されたそうです。

東京支部事務局は、このコーナーへの皆様からの情報提供をお待ちしています。

(文責：東京支部事務局 泉屋ゆり子)

東京支部事務局より

本号の巻頭記事は7月末に山梨県で開催された大撮影会です。東京支部が幹事であり、支部長をはじめスタッフ一同2年以上かけて準備し、満を持して開催にいたりました。それだけに無事終了したときはほっとすると同時に誇らしく、スタッフの報告にも気合いが入っています。

事務局としては、当初は熱気に満ちた大撮影会の様子をお伝えするために写真を多用したい、それも遠景で人の顔のわからない写真ではなく、生き生きとした表情まで伝える写真を使用したいと思いましたが、ふと著作権や肖像権の問題があると気づきました。紙に印刷して支部のメンバーだけに配布するのであれば、神経質になることもないのですが、この支部だよりはWeb上に公開するので、慎重にならざるを得ません。

著作権については撮影者の了解を得ればよいので、わりあい簡単にクリアできました（と、事務局が思っているだけかもしれません）。

問題は肖像権の方です。写真を見る方はとても良い顔で素晴らしいと思っても、写された側が不本意な場合もあるでしょう。とはいえ、被写体となった方にいちいち了解を取るのも大変です。

被写体となった方には肖像権、すなわちみずからの肖像をみだりに利用されない権利がありますが、撮影者あるいは支部だよりの作り手には表現の自由があります。表現の自由のために肖像を使う必要性が高いのか、肖像権ないしはプライバシーの保護を尊重すべきか・・・よくわからず、たいへん悩みました。

肖像権についてはまだまだ勉強が不足していますが、どのように写真を使用するかについての指標としては以下の項目について検討すべきらしいです。

1. 被撮影者の社会的地位（例：公に関心を持たれるべき人か／一般の人か）
2. 撮影された被撮影者の活動内容（例：人に知られても構わない行動をしていたのか／知られたくない行動をしていたのか）
3. 撮影の場所（例：不特定多数の人が出入りできる場所か／プライベートな場所か）
4. 撮影の目的（例：社会のためになるか、自分の利益や趣味のためか、不当な目的はないか）
5. 撮影の態様（例：隠し撮り・騙し撮り・住居侵

入・撮影禁止場所など、法違反やマナー違反はないか）

6. 撮影の必要性等

今回の支部だよりに使用した写真は事務局イズミヤが上記について熟慮した結果、問題ないと判断したものです。正解か否か自信はまったくありません。

上記の基準は、出版物などを発行する際にこれらを守っていれば肖像権を侵害したということで提訴されても敗訴することはないというだけのものです。人間関係においては、法律に反していないから大丈夫ということはありません。法律に反していないのは当然至極であって、良い関係を築くにはもっと多くの配慮が必要とされます。最近ではたいへん一般化したSNSへの写真投稿（たとえば結婚式の写真など）の際は、顔が写っている人には投稿前に一言断りを入れるのが礼儀とされているようです。

この度使用した写真についても、ただ写り込んでしまった人を除くとしても、メインの被写体である方には同意を取り付ける方が良かったかもしれません。ただ、この「支部だより」はSNSほど開かれた媒体ではなく、ある団体のホームページに支部情報のページがあり、そこにリンクが貼ってあるというだけなので、そのあたりを割愛しましたが、その点について、いろいろとご意見が出そうですし、お叱りがあるかもしれないとも思っております。お叱りも含めて、忌憚のないご意見をおきかせいただければ嬉しいです。

ちなみに、この号に使用した写真の撮影者は以下の通りです。

写真A： 須賀尾浩さん

写真B： 和歌山支部支部長 中尾建夫さん

写真C-E： 泉屋ゆり子

余談ですが、わたしはスナップも好きでよく撮る、というか、この頃は遠出できないため、スナップの方が主になってしまったみたいです。街角で写真を撮っていると、美しい方はたいてい微笑んで下さるのですが、そうでない方に限って削除してくれと言います。また、お祭りで観客の子供の写真撮っていたら、親御さんが気づいていてもとくに制止されないのに、他のアマチュアカメラマンから「撮るな」という「ご指導」があつたりします。

写真を撮るのもたいへんな時代になりました。

（文責：東京支部事務局 泉屋ゆり子）